



大学生の力を活用した  
集落活性化調査委託事業実証実験

藤巻で Go! 2010

福島大学 ビックブラックゼミナール

# ビックブラックゼミナールとは？

- ・福島大学行政政策学類・大黒ゼミ
- ・2009年度に2年生の授業科目「基礎演習」を母体に発足(20名)
- ・福島県の「大学生の力を活かした集落活性化調査事業」に応募、藤巻の存在を知る

<2009年7月～>

→「藤巻プロジェクト開始！」

- ・2010年度は、昨年度のメンバー20名に、1年生の授業科目「教養演習」(23名)と2年生の授業科目「専攻入門科目」(26名)を加えた総勢69名で再出発

夢見る藤巻民



2枚目


私達は昨年度より福島県の「大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業」に参加しました。昨年度の学生は20人、今年度は3倍の69人の学生で藤巻集落を訪れました。

# 藤巻プロジェクトとは？

## 福島県「大学生の力を活かした集落活性化調査委託事業」

- ▶ 大学生が持つ新しい視点や行動力で、集落の活性化を図り、集落の応援者を育成することを目的とする
- ▶ 大学生グループと集落をマッチング/ビックブラックゼミナールと藤巻集落
- ▶ 初年度の「調査事業」と2年目の「実証実験」に分かれる
- ▶ 藤巻プロジェクト(2009/調査事業)は昨年度実施
- ▶ 藤巻プロジェクト(2010/実証実験)を本年度実施

## 藤巻集落

- ▶ 喜多方市山都町藤巻地区(総合支所から約20キロ、車で30分程度)
  - ▶ 8世帯14人(高齢化率92.86%)←→6世帯10人(100%)
  - ▶ 木地師たちの集落
  - ▶ 冬期間は2メートルを超える積雪
- 

3枚目

藤巻プロジェクトについて簡単に紹介します。

このプロジェクトは、福島県の「大学生の力を生かした集落活性化委託事業」に参加し、大学生が持つ新しい視点や行動力で集落を活性化することが目的とされる中で、私達ビックブラックゼミナールと藤巻集落が出会いました。

藤巻集落は、喜多方市役所山都総合支所から約20キロ、車で30分程度かかるところにあり、実質高齢化率100%、6世帯10人しか住んでいない集落です。冬期間は2メートルを超える積雪に見舞われます。

そのような集落で昨年度は「調査事業」、今年度は「実証実験」を行いました。

# 藤巻プロジェクト2009

## 2009年度(調査事業)

**福島大生が聞き取り**  
喜多方 県の集落活性化調査



藤巻集落で住民らの話を聞く大黒准教授と学生ら

県の過疎・中山間地域振興戦略「大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業」に参加する福島大のビュックブラック・セミナー

取調調査した。

大黒准教授（大黒太郎行政政策学類准教授）は4日、調査研究先の喜多方市の藤巻集落を訪れ、集落の現状などを聞き取り調査した。

藤巻集落は同市山都町北部に位置し、わずか6世帯10人が居住する地域。同ゼミは9月末から同集落に滞在し、本格的な調査を開始する。この日は関係者へのあいさつと事前調査のため、大黒教授と学生7人が集落を訪れた。学生らは活性化のアイデアを練るため、小椋実区長ら住民に集落の歴史や暮らしなどについて話を聞いた。

同事業には県内外の大学から7団体が参加。若者の視点から過疎・中山間地域の振興を研究、調査報告書を作成して発表する。県が調査費を補助する。

- ◆7月20日(月)山都町グリーンツーリズム参加
- ◆8月4日(火) 第1回調査(新聞記事)
- ◆9月8日(火) 第2回調査
- ◆9月17日(木) 第3回調査
- ◆11月7・8日(土・日)第4回調査・本調査  
全戸調査・検討会・集落討論会の実施/  
萱刈り・落葉拾い・大根堀り
- ◆11月14日(土)喜多方市主催シンポジウム「集落支援塾」での研究発表  
(於:喜多方市)
- ◆11月19日(木)福島県主催「集落活性化  
県民討論会」での研究発表  
(於:会津若松市)  
沢庵漬物の仕込み
- ◆1月14日(木)藤巻集落での「歳ノ神」の  
お祭りに参加・キャンドルロード  
漬物と調査報告書を出身者に発送

4枚目

まず昨年度の藤巻プロジェクトを紹介します。

8月4日に初めて藤巻に行き、11月7、8日と調査活動、落ち葉拾い、大根掘りと集落の方々と共に活動しました。1月14日には再度藤巻を訪れ、集落のお祭りである「歳の神」に参加しました。写真は初めて藤巻へ行った時の写真になります。

# 藤巻プロジェクト2010

- ◆6月4日 2009年度の活動報告書第1部(紙芝居)の寄贈
- ◆6月26日 フォーラム「小規模自治体の可能性を探る」(於:福島大学)で喜多方市役所佐藤さんと第1回目打ち合わせ
- ◆7月14日 耶麻農業高校訪問と協力依頼、1ターン者訪問・聞き取り、藤巻での畑整備
- ◆8月22日 赤筋大根の種まき
- ◆10月3日 藤巻そば刈り実習
- ◆10月17日 山都町そば祭り、イベント案内ビラの配布、赤筋大根の紹介
- ◆11月7日 イベント予備調査・挨拶
- ◆11月14日 「藤巻でGo! 2010」を開催  
参加者 約80名
- ◆11月21日(本日) 喜多方市主催「農山村集落元気塾」での報告

## 2010年度(実証実験)

1/16 民報

(第三種郵便物認可)



活性化のために藤巻集落を訪れた福島大生ら

### 山の集落に元気運ぶ

#### 喜多方市山都町藤巻地区

#### 学生70人が大挙訪問

#### 交流通し活性化探る

福島大行政政策学類の学生ら約七十人が十四日、喜多方市山都町藤巻地区で地域活性化イベントを繰り広げた。人口十人の山間部にふだんの八倍もの人が集まり、若者のにぎやかな声が響いた。

イベントは県の「大生を力に活用した集落活性化事業」として行われた。実証実験を委託されている福島大ピンクラックゼミナールが主催した。学生たちは地域住民の指導を受けながらアイコンの抜き取り作業や落ち葉拾いなどを体験。耶麻農高生と協力した。

してそば打ちも行った。昼食では地元食材をたっぷり使ったキノコ汁、そばなどを味わいながら住民と懇談した。住民と高校生との共同作業を通じて、集落の維持と活性化策を探った。

藤巻地区は山都町の中心部から北に約二十キロ離れた飯豊山麓の集落。六世帯、十人が暮らしている。最年少は七十七歳の小椋奥区長。小椋区長は「みんな出て行ってしまっただけに寂しい思いをしている中、若い人が訪れて元気付けてくれるのはありがたい」と話していた。



5枚目

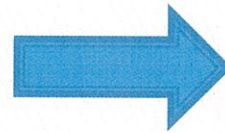
次に今年度の藤巻プロジェクトを紹介します。

今年度は7月14日に耶麻農業高校を訪問と協力の依頼、Iターン者訪問・聞き取り、藤巻での畑整備を行いました。それから、赤筋大根の種まきとそば刈り実習を行った後、11月14日に「藤巻でGo! 2010」イベントを開催しました。その時の写真になります。

# 調査事業(2009)から実証実験(2010)へ —初年度の成果を次年度に活かす

1年目の調査結果と活性化提案を、2年目に実証的に実験する！

「調査事業」の結論



実証実験の課題

2009年度

2010年度

6枚目

私達は「大学生の力を生かした集落活性化委託事業」に参加しているわけですが、福島県のこの事業は1年目に調査活動を行い、2年目はその調査とそれに基づく活性化のための提案を実施するという形で実施することになっています。

# 「調査事業」の成果①

## 「藤巻民」 概念の創出



山ぶどう酒に酔った藤巻民

## 藤巻民って何？

藤巻と何らかの形に関わりを持っている人たち全てを指す言葉として、ビッグブラックゼミナールが作った言葉。現在、藤巻集落に住んでいる方を含め、何らかの形で藤巻に関わっている方や関心を持っている方なども合わせて藤巻民と考える。

7枚目

それでは始めに昨年度の「調査事業」の成果を確認していきます。

最大の成果は、「藤巻民」という概念を創り出したことです。藤巻民とは何か？ということですが、藤巻民とは藤巻と何らかの形で関わりを持っている人たち全ての方々を指す言葉になります。集落に住んでいる方はもちろん、集落出身者、私たち学生、缶詰を買ってくれる消費者の皆さんすべて藤巻民と考えました。

# 「調査事業」の成果②

2009年度の藤巻民数  
(ビックブラックゼミナール調べ)

# 11845人

藤巻方式計算法: 1人1日の関わり=1人

例えば...

- 1人の人が1日藤巻に関わった=1人
- 息子が1日帰省した=1人
- 喜多方の〇〇さんが缶詰を買った=1人
- 10人の作業員が1日道路工事をした=10人
- 1人の住民が365日藤巻で生活した=365人

合計・藤巻民378人となります！



藤巻民による作業

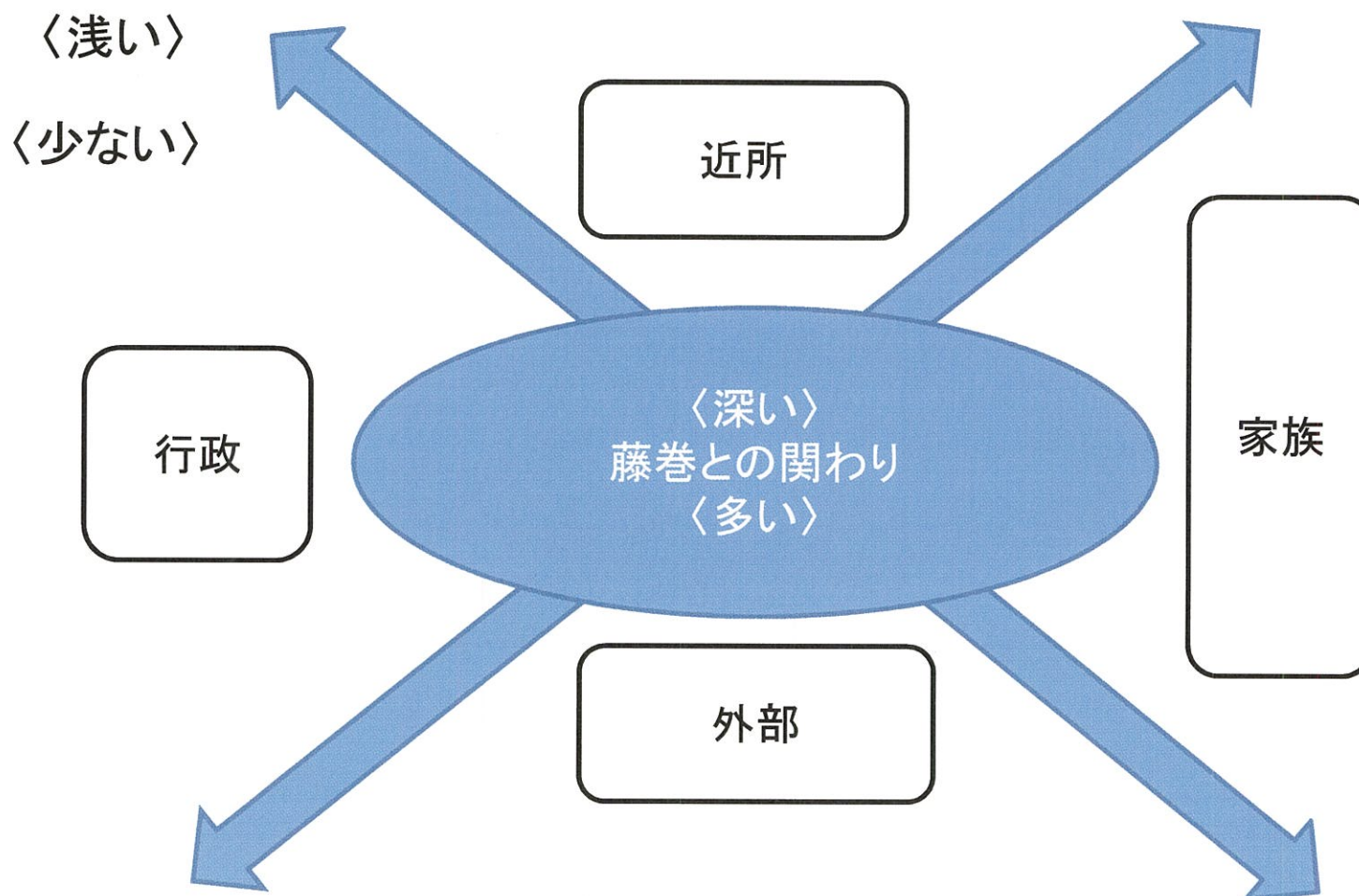


## 8枚目

成果の2つ目は、昨年の藤巻民数を調査したことです。私たち独自の計算方法において、昨年の藤巻民数の調査結果は、なんと11845人となりました。どうしてこんなにも多くの藤巻民数の結果になったかというと、それは藤巻方式計算法に理由があります。1人1日藤巻との関わりがある場合それが1人になるという計算です。

## 「調査事業」の成果③ 藤巻民関係図の作成

### ＜関係性とその濃度を分類する＞



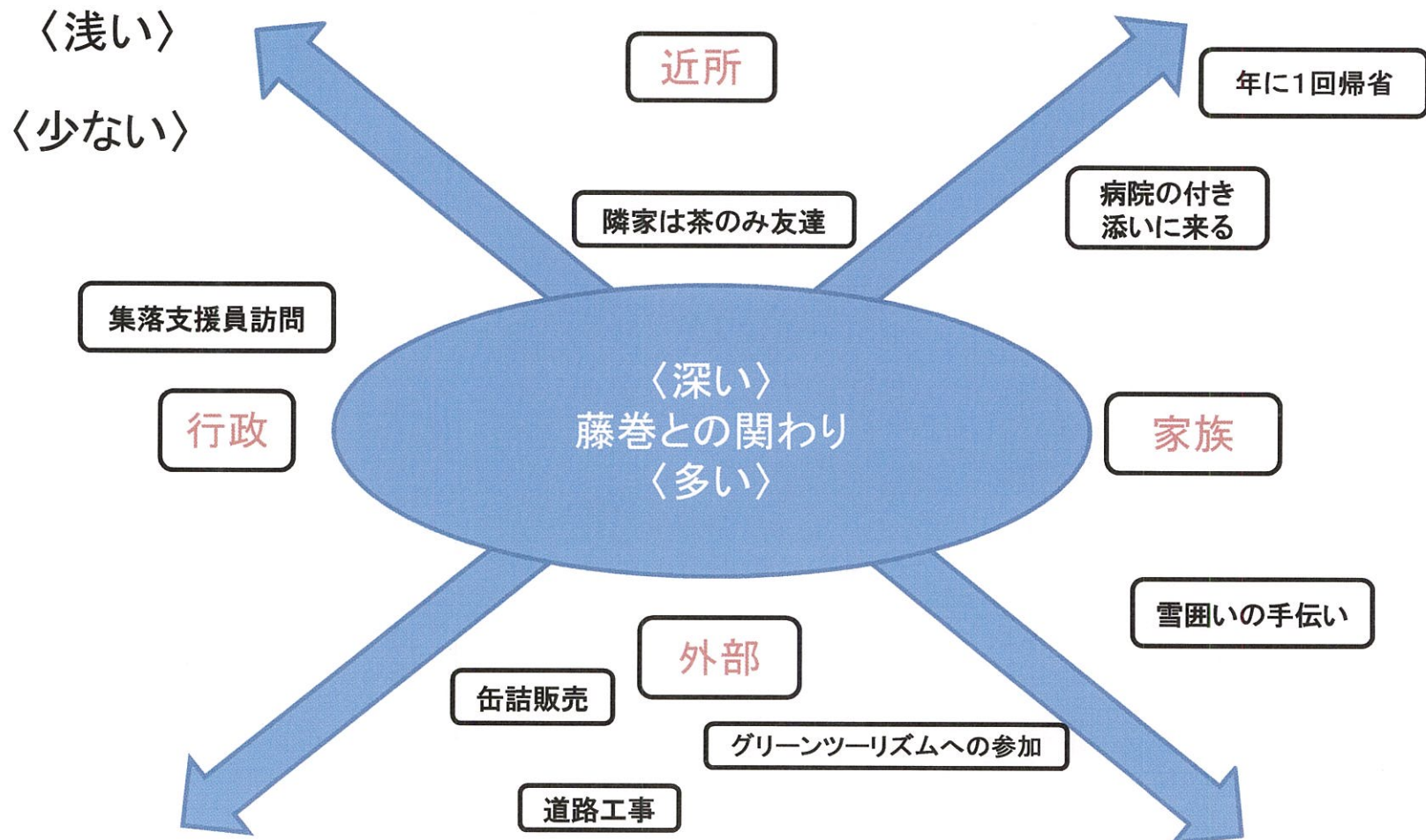


## 9 枚目

成果の3つ目としてさらに私たちは、「藤巻民関係図」というものを作成しました。これは、藤巻民の関係性と関係の濃度を図で示したものです。この図は中心に近ければ近いほど、藤巻との関わりが深いまたは多いというものになります。藤巻に関わる方々として、近所同士の付き合い、行政の方、外部の方、家族の方に分類しました。

# 「調査事業」の成果④ 2009年の藤巻民関係図

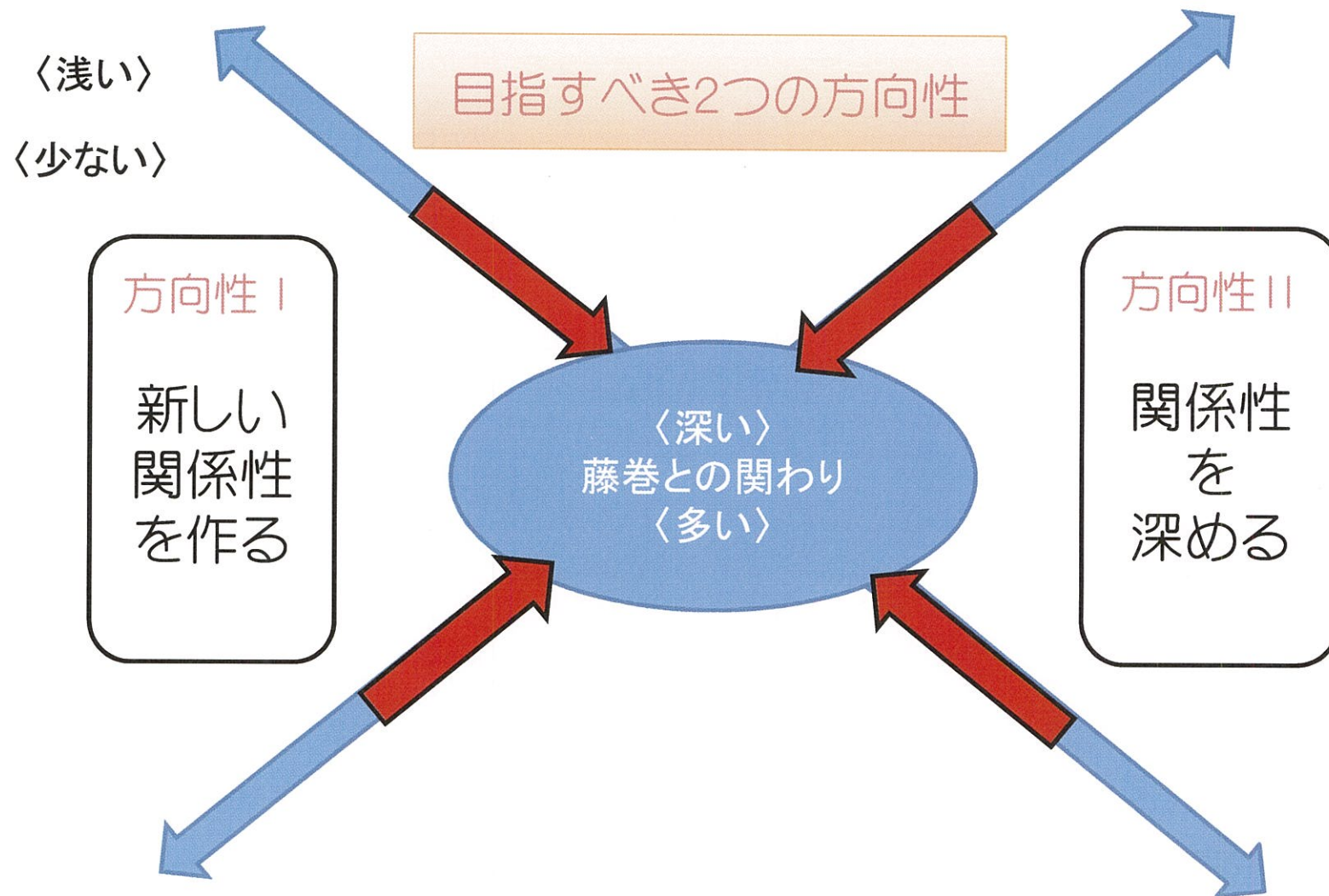
＜関係性とその濃度を分類する＞



## 10枚目

成果の4つ目は、昨年度の段階で「藤巻民関係図」がどうなっているのか調査し、示したことです。先ほかに図に聞き取り調査の内容をマッピングした図になります。例として、家族という「関係性」でみた時に「病院の付き添い」は中心に近く、「年1回の帰省」は中心から離れた位置になります。

# 「調査事業」の成果⑤ 未来の藤巻民関係図の構想



## 1 1 枚目

成果の5つ目として、未来の藤巻民関係図の構想を考え、活動を通じて私たちが目指そうとした方向性を示した図を作成したことです。マッピングした図から目指すべき2つの方向性を考えた時、1つの方向性は、2009年度に見られなかった新しい関係性を作ることと、もう1つの方向性としては、2009年度よりも関係性を深めるという2つの方向性が考えられました。

「調査事業」の成果⑥ 2009年度調査事業の結論

**藤巻民を増やそう！**

**藤巻民を増やす2つの方向性**

方向性①・・・新しい関係性を創る

方向性②・・・関係性を深める



2010年度「実証実験」の課題  
2つの方向で藤巻民を増やすプログラムを考案する！

⇒ 藤巻でGo！2010

## 12枚目

成果の6つ目としては、以上のように2009年度の調査事業の結論をまとめると、次のようになります。

まず藤巻民を増やそうということです。そしてそのために目指す方向性は、先ほどの内容のように、新しい関係性を作る、関係性を深めるということになりました。

その課題をもと今年度は「藤巻で Go! 2010」というイベント企画を立て、11月14日に実施しました。

# 藤巻でGo! 2010(11月14日) 実施報告

食べる藤巻民



藤巻民のあこがれ  
蕎麦の花



ドイツからの藤巻民とともに





13枚目

今年度の藤巻プロジェクトの活動を紹介します。

# 藤巻でGo!2010プログラム(午前)

新しい関係性を創る3つのワークショップ

→方向性 | 「新しい関係性を作る」の追求

→誰に集落に関わっていただくのか？

①藤巻そば 手打ち体験

～耶麻農業高校生に学ぶ

②フッフ…赤筋大根を縛ろう/落ち葉拾い体験

～集落(出身者)のみなさんに学ぶ

③藤巻缶詰新ラベルの考案会

～1ターンのみなさんに学ぶ

## 14枚目

「藤巻で Go! 2010」のプログラム内容を紹介します、午前は新しい関係性を創る3つのワークショップを行いました。

1つ目が、藤巻そば手打ち体験～耶麻農業高校生に学ぶ

2つ目が、フフフ・・・赤筋大根を縛ろう／落ち葉拾い体験～集落(出身者)のみなさんに学ぶ

3つ目が、藤巻缶詰新ラベルの考案会～I ターンのみなさんに学ぶ

になります。

# 藤巻でGo!2010プログラム(午後)

関係性を深めることを目指した昼食会と3つの企画

→方向性II「関係性を深める」の追求

→どんな活動を通じて、藤巻への「根付き」を作りだすのか？

藤巻青空バイキング

藤巻民結束のための3企画

- ①農地でスポーツ
- ②タイムカプセル
- ③「藤巻民」年賀状交換

## 15枚目

午後は関係性を深めることを目指した昼食会と3つの企画を行いました。お昼は藤巻青空バイキング、午後は藤巻民結束のための3つの企画を行いました。

1つ目が、農地でスポーツ

2つ目が、タイムカプセル

3つ目が、「藤巻民」年賀状交換

になります。

# 新しい関係性を創る ワークショップ①

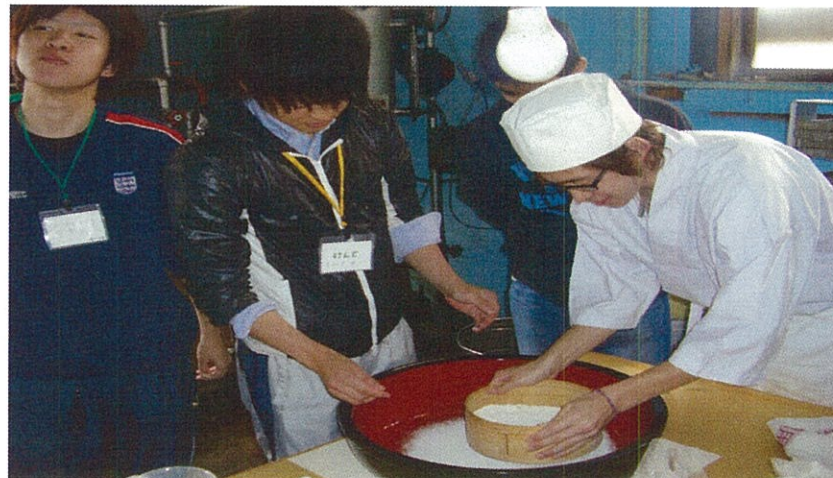
## 藤巻そば 手打ち体験～耶麻農業高校生に学ぶ

### 農業高校生参加の意義

- 高校生という新しい関係性が生まれる→高校生のいる集落
- 将来の地域を支える若者が地域の課題と関わるきっかけを得る
- 蕎麦打ちを将来の職業とする高校生に、藤巻そばのよさを知ってもらう
- 高校生と大学生との連携・協働(高大連携・大学進学へのきっかけとする)
- 地域が抱える課題を、学校を含む地域全体で共有する
- 学校という安定的な制度に見守られる長期的な活動が可能になる
- 最新の農業技術と昔ながらの知恵の融合
- ...

### 今後の発展可能性

- 高校生が持つ繋がりが持つ可能性(家族・都市の高校生=都市-農村高校の交流企画、など)
- 遊休農地の再耕地化後の作付作物(翌年度以降の予定)
- 蕎麦など藤巻の産品を使った共同の商品開発
- ...



## 16 枚目

それぞれのプログラム内容を紹介します。

まずワークショップ1つ目、藤巻そば手打ち体験～耶麻農業高校生に学ぶです。

この活動の最大の意義は、集落と高校生という新しい関係性を生み出し、高校生がいる集落作りのきっかけになることです。また今後の発展の可能性として、高校生の持つ繋がりを生かすということで、都市の高校と農村の高校との交流企画や、高校生に遊休農地を活用してもらおうといったことが考えられます。そば打ち体験の時に印象深かったエピソードがあり、それはそば打ちを教えに来てくれた高校生から「将来は東京に自分のそば屋を作りたい。藤巻のそば粉を使って作りたい。」と言ってもらえたことで、可能性が広がったと思いました。

# 新しい関係性を創る ワークショップ②

## フフフ…赤筋大根を縛ろう！～集落(出身者)のみなさんに学ぶ

### 集落(出身者)の皆さんに学ぶ意義

- 赤筋大根という地域の地野菜＝財産の保存と継承
- 赤筋大根の全てを利用する方法の継承  
(間引き菜の漬物や葉っぱの入浴剤としての利用方法など)
- 食材の保存＝生活の技法を学び、継承する
- 外部と藤巻をつなぐ「出身者」としての立場から、藤巻の持つ客観的な可能性を知り、活かす
- 藤巻民としての基礎技能の習得
- …



### 今後の発展可能性

- 珍しい特産品野菜の商品化を目指す
- 蕎麦との相性を活かす利用方法の追求
- 無駄のない利用方法の普及を目指す(誰も試したことの無い大根の入浴剤、など)
- 耶麻農業高校と連携した特色の明確化
- 市内レストランや農業高校と共同で、特色を活かした調理方法の開発を試みる
- …



## 17枚目

ワークショップ2つ目はフッフ・・・大根を縛ろうです。

これは集落のみなさんと集落出身者のみなさんに学ぶことを目的としたものです。学ぶ意義としては、赤筋大根という地域の地野菜、その財産の保存、そして継承というものがあります。それは外部の方々が藤巻を知るきっかけになり、これからの可能性を考え、生かすことができます。今後の可能性としては、赤筋大根の商品化を目指すことや、赤筋大根とそばとの相性を生かす利用方法を考えること、そばとのつながりを考えると、高校生と新しい調理方法を考えるといったことが考えられました。

# 新しい関係性を創る ワークショップ③

## 藤巻缶詰の新ラベル考案～ターンのみなさんに学ぶ



### ターンの皆さんに学ぶ意義

- 藤巻に初めて入った新鮮な驚きを缶詰デザイン、藤巻ブランドのイメージ、そして活性化策に活かせる
- 多様な社会的バックグラウンドから生まれる大胆なアイデアを活かせる
- 「消費者」としての目からみた藤巻をより客観的に知る

### 今後の発展可能性

- 地域で生活基盤を一から作り上げてきた方々のアドバイスが得られる
- 藤巻を重要な「生活」の場として活用してもらえる可能性
- 藤巻の魅力を、その人間関係を活かして、他地域の家族・友人、同僚などに広く伝えてもらい、藤巻民をさらに拡大
- ...



## 18枚目

ワークショップ3つ目は藤巻缶詰の新ラベル考案です。

これはIターンのみなさんとの関係を作り出すことを目的としていました。学ぶ意義としてIターンの方々に藤巻に初めて入った新鮮な驚きを缶詰のデザインや藤巻ブランドのイメージ、藤巻活性化案に生かします。また様々な社会的バックグラウンドから生まれる大胆なアイデアを生かすこともできます。今後の発展の可能性として、生活基盤を作り上げてきた方々のアドバイスを得ることができたり、藤巻を「生活」の場として活用してもらえらることを通じて、藤巻との関わりを深めてもらうことが考えられました。

## 藤巻民の関係性を深める

# 藤巻青空バイキング

### 藤巻青空バイキングとは？

- 山都町内で「ターン」の方が始められた古民家カフェ「茶房 干」のご協力で開催
- 藤巻の特産品「赤筋大根」や「なめこ」を使い、地産地消を意識した料理の提供
- 午前の「藤巻そば 手打ち体験」で作った蕎麦も試食
- 集落内各地に分散して行った昼食会



### バイキング形式の昼食の意義

- 多くの人との「食べる」という時間の共有で、交流を深める
- 様々な社会的背景を持ったもの同士が、相互に関わりある貴重な機会
- 集落(出身者)のみなさんや「ターン」の方々との交流という貴重な時間
- 大自然を感じながら、その地で取れたもの、その地の皆さんの思いがこもったもの、自分たちが関わって育てたものを食べる
- 料理は、グリーンツーリズムの「核」

### 今後の発展可能性

- 地域のポータルステーションとなっている「茶房 干」を通じて、藤巻を紹介
- 「茶房 干」を通じて、「ターン」者との交流を進める
- 食材の提供場所としての藤巻（や周辺地域）の可能性追求
- 地域食材を使った地域の「弁当屋」さんの創出  
(弁当の需要は意外に多く、市場販売できない食材を利用することで、食材提供者も弁当屋も双方にメリットがある)
- ...

## 19枚目

次に2つ目の方向性、関係性を深めるという企画の1つ藤巻青空バイキングです。

藤巻青空バイキングは、山都町内でIターンの方が始められた古民家カフェ「茶房 千」のみなさんの協力で実施され、藤巻の赤筋大根やなめこを使った料理を提供していただきました。この活動の意義は、「食べる」という時間の共有で藤巻民同士の交流を深めること、様々な社会的背景を持つ方々がいり交じって交流しあう貴重な機会となりました。今後の発展の可能性としてIターンの方々の交流の場ともなっている「茶房 千」を通じて、藤巻の紹介をしてもらうといったことや、カフェで使う食材を藤巻から購入してもらうといったことが考えられました。

# 藤巻民の関係性を深める

## 農地でスポーツ～来年もここで会おうぜ！

### 「農地でスポーツ」の目的＝「土地」への愛着を深める

□土地への愛着を深めるには……その地を使った活動を行う

- 自動車で通過
- 旅行にやってくる、風景を楽しむ
- キノコ狩り、山菜取り、氷筍見学などのグリーンツーリズムへの参加
- スポーツをする**
- 宿泊する
- …
- 作物を栽培する**
- …
- ↓→その土地に家を建て、住む（住民）

### □農地でスポーツのアイデア

自らの手で蕎麦の種を播き、また実を収穫した土地で、スポーツを行う

翌年も、同じ土地に藤巻民が集合し、種を播き、実を収穫し、そしてスポーツを行う

季節ごとに藤巻を想い、「藤巻民」という共通性を持つ人たちが、定期的に藤巻を訪れるのでは？

遊休農地の再耕地化の拡大とともに、スポーツを大規模化していく？

今年（2010）  
竹馬・縄跳び・神経衰弱

→ 201×年  
野球対決（グラウンド/18人）

→ 20××年  
サッカー試合（競技場/22人）

## 20 枚目

関係性を深める 2 つ目の企画は、農地でスポーツ～来年もここで会おうぜ！～です。

農地でスポーツの目的は「土地」への愛着を深めることです。土地への愛着を深めるにはその地を使った活動を行うことが大切です。土地を使った活動にはいろいろな方法が考えられます。旅行にやってくることやグリーンツーリズム参加もその地での活動になりますが、それ以上にスポーツをしたり、その地で作物の栽培をすることはより活動的で土地への愛着を強めることになると思います。自らの手で作った作物を収穫した後そこでスポーツを行う。これが私達が考えた農地でスポーツのアイデアです。そうすることによって翌年もまた同じ藤巻民同士が集まりまた活動を行うことが考えられ、藤巻民の拡大、定期的に藤巻で活動が行われるようになるのではないかと考えました。今年度は竹馬、縄跳び、神経衰弱の 3 つのゲームを行いましたが、現在藤巻で広がっている遊休農地を再耕地化し、スポーツのできる農地の拡大するにつれて、スポーツも野球やサッカーとより本格的なスポーツと大規模化していければいいと考えています。

# 竹馬競争

踏ん張る藤巻民



藤巻民、横から



支え合う藤巻民





21枚目

農地でスポーツの写真になります。

# 大縄跳び



飛ぶ藤巻民



飛んだ後の藤巻区長

# 大神経衰弱



めくる藤巻民



トランプと藤巻民

22枚目

農地でスポーツの写真になります。

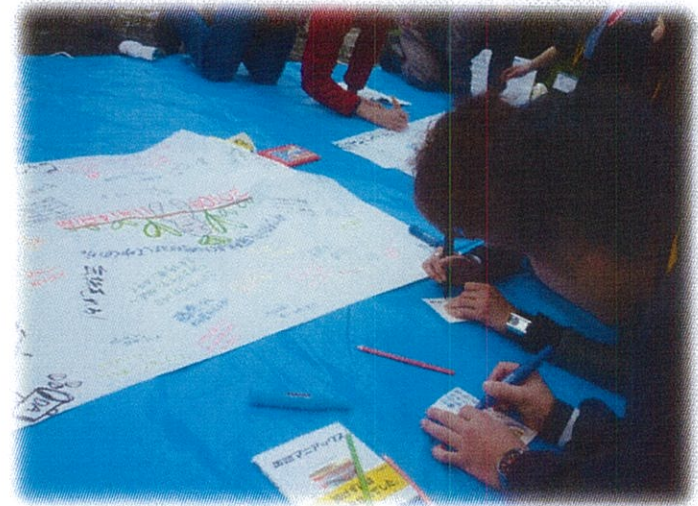
# 藤巻民の関係性を深める 風神様タイムカプセル2010

風神様タイムカプセル(2010)とは

- 参加者全員が一言メッセージを記した模造紙を、ネームプレートとともに埋め込む

タイムカプセルを埋める目的

- 集落を見守る「風神様」とともに、藤巻民が集落を見つめ続けることを象徴的に示す
- この活動が来年度も引き続き行われ、また「藤巻民」が再会できることを期待し、さらに来年度は新しい「藤巻民」を増やそうという願いを込めた



藤巻民のつばやき



紙のうえの藤巻民



藤巻民から藤巻民へ

## 23枚目

関係性を深める3つ目の企画は、風神様タイムカプセル2010です。

私達は、今回のイベントの参加者全員が一言メッセージを模造紙に記したものと、ネームプレートをタイムカプセルに入れ埋め込みました。この目的は藤巻民が集落を見つめ続けることを象徴的に示すとともに、来年以降もまた藤巻民が再会できること、さらに藤巻民拡大の願いも込めたものになりました。

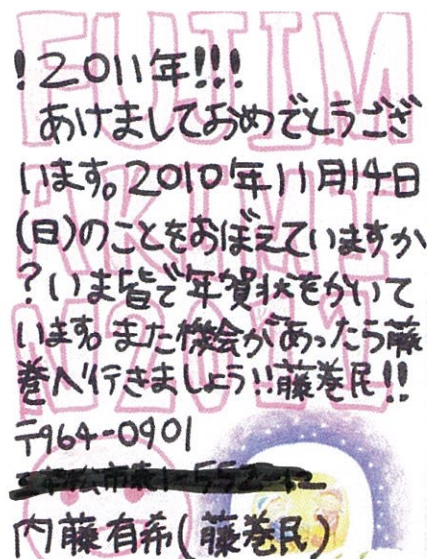
# 藤巻民の関係性を深める 藤巻民年賀状交換

## 藤巻民年賀状交換とは

- 参加者全員が、宛先は空欄にしたまま、年賀状を1枚書く
- 2011年1月1日には、藤巻民の誰かから年賀状が届く

## 藤巻民年賀状交換の目的

- 1年の初めに藤巻と自分との関わりを思い出す
- 藤巻民同士の新しい個人的関係が生まれる (かも)
- 2011年度も藤巻と関わり続ける意欲をかき立てる



## 24枚目

関係性を深める最後の企画は、藤巻民年賀状交換です。

これは、参加者全員が、あて先を空欄のまま年賀状を書き、2011年1月1日に藤巻民の誰かから年賀状が届くというものです。目的としては、1年の始めに藤巻との関わりを思い出してもらい、2011年度も藤巻に関わり続けてもらう願いを込めたものになりました。

# 今年度のプロジェクトの反省点=今後の課題

## ▶ 持続可能な活動方法とは？

今年度は60名の学生の活動となったことで、費用・活動能力の点で私たちの限界を超えていた。単発のイベントで終わらないための持続可能な活動方法を模索したい。

## ▶ 意義ある活動内容とは？

今年度は、学生70名の参加によって昨年度より活動の幅は広がったが、かえって大人数を動かすことに力を奪われ、本来の目的である「交流」がどこまで達成できたか心もとなく、反省がある。活動規模とともに、意義ある活動内容を再考したい

## ▶ 長期的な学生の関わり方とは？

県の事業としては2年で終了予定であり、またプロジェクト当初からの参加メンバーも、来年度以降就職活動や卒業に直面する。学生が長期的に関わる仕組み（たとえば、インターンシップ制度の活用など）、卒業しても関われる仕組みとはどんな形なのか、考えていきたい

↓  
今後の課題：

## ▶ 藤巻民の活動を地道に形に

2年間の活動を通じて、学生ばかりでなく、地元高校生や1ターンのみなさん、地元喫茶店や商店の方、そば協会の方々、NPO法人のみなさんなど、多くの社会的背景を持った「藤巻民」が生まれた。藤巻民の繋がりを活かした活動を、「形」にしていく地道な取り組みを今後も展開していきたい！



藤巻民女子会



藤巻民男子会

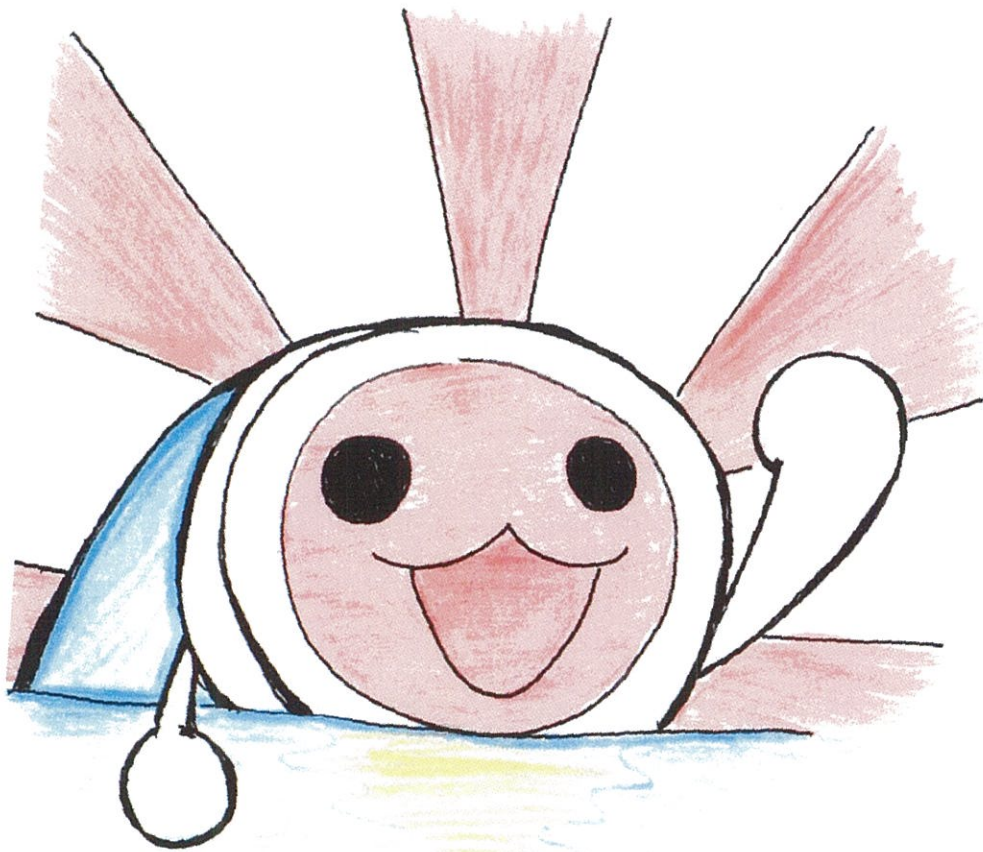


## 25 枚目

### 今年度のプロジェクト反省点と課題

今年度は学生70人近くの参加で、活動の幅は広がりましたが、本来の目的である「交流」をどこまで達成できたか心もとなく反省点として挙げられました。費用や活動能力の点で大人数を動かすことに限界を超えていました。単発のイベントで終わらせないためにも、長期的に関われるよう学生の後継者の育成から、持続可能な意義のある活動内容を模索していきたいと考えています。

これまで様々な報告会に参加させていただいて、私達と同じような活動を行っている大学の方々や行政の方々からのお話を聞く機会がありました。そこで地域の活性化を行いたいという集落は多くても高齢化率50パーセントで、藤巻集落の高齢化率100パーセントと聞くと何とか集落を最後まで見守ってほしいと言われます。しかし、私達の活動は藤巻集落の最後の花道を作っているわけではありません。今はまだ私達の活動は活性化のきっかけ作りに過ぎないのかもしれませんが、新たに生まれた関係性を大切に、来年度以降も地道な活動を続けていきたいと考えています。



藤巻民の日の出2011

ご清聴  
ありがとうございました

26枚目

最後になりますが、今回の私達の活動に多くの支援をしていただいた方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。